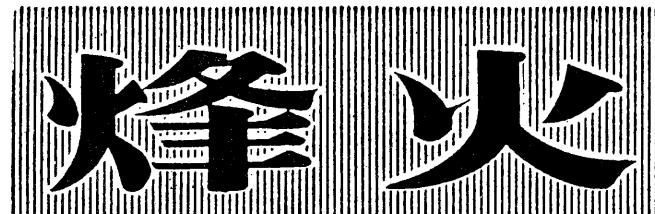


☆帝国主義の侵略反革命を粉碎し全世界の帝国主義を打倒せよ！ スターリン主義との国際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命—世界プロ独一共产党を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

1985年
6月15日
第362号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫
■ 沖 繩 那霸東郵便局 私書箱 2016号

全国のたたかう労働者人民諸君！
わが共産同（全国委）は、五五年、加納一派による同盟破壊に対し、非公然戦闘をふくむ全国政治闘争を主戦場に加納一派を放逐し、三〇一号路線を確立した。そしてその勝利のうえに、労働者人民を戦争とファシズムに導きこむ労働戦線の右翼的統一に抗し、階級的労働運動構築を基礎に階級形成をおこなうという、わが国新左翼がかつて着手したことのない事業に着手してきた。階級的労働運動陣形の構築と、それに結びついた大衆的政治統一戦線の形成がそうである。われわれは、このたたかいがいまだ一地方的であることを知っている。そして三〇一

日韓・ニカラグア連帯がかけ 今夏国際連帯闘争にたて



▲米文化センターを占拠する韓国学生（五月二十四日）



◆国境地帯の防衛につく兵士（ニカラグア）

全国のたたかう労働者人民諸君！
全世界で民族解放－社会主義革命の嵐が中南米、韓国で燃えあがっている。全世界の労働者人民が、社会主義を熱望し銃をとり、自らの命を自らの仲間と次代を担うものの将来のために英勇的にたたかっている。われわれもまた、彼らのたたかいにつづくとともに、各国の階級闘争を世界革命－世界プロレタリア独裁に統合していく任務をひきうけねばならない。

そしてこのたたかいのもとに、わが国階級闘争を領導しなければならない。わが国階級闘争は、いまだプロレタリア社会主义革命から遠くへだてられている。このことを直視するならば、個別闘争の急進化や、政治闘争を社会主義革命と切断・固定化する部分とたたかい、労働者階級を基礎から階級形成を大規模に、工業的に行なっていかねばならない。これなくして日帝足下の労働者階級が、自國の権力を樹立したニカラグア人民に連帯せよ！ 真紅の国際主義につらぬかれたプロレタリア政治闘争を組織せよ！ 今夏、政治闘争の最前線に決起せよ！

共産主義者同盟全国委員会に結集せよ！

米帝のニカラグア軍事侵攻
ねらう「カバナス85」弾劾！
革命防衛のカンパ運動を！

夏期一時金カンパを！

共産主義者同盟（全国委）

このたたかいの先頭に党と労政がたつ

の不可欠の戦略だからである。

号路線として確立した武装蜂起－プロレタリア独裁とのあいだにへだたりがあることを知っている。われわれは、党建設の第三歩を全国主要都市における階級的労働運動の陣形建設と大衆的政治統一戦線の構築に設定する。これは武装蜂起－プロレタリア独裁を勝利に導くため

きり、まさに革命の司令部－伝導路として構築していく決意である。そのため基本組織を「政治的戦闘組織」としてさらに武装していく決意である。すべての「烽火」読者の皆さんのが、わが党建設の前進のため圧倒的カンパをよせられることを訴える。



▲実力闘争でたたかう延世大生(5月11日ソウル)

八〇年五月、全斗煥独裁政権が非常戒厳令を全土に拡大し、南朝鮮人民のたたかいを庄殺しようとしたことに憤激した光州市の労働者人民は激しい反全斗煥闘争に決起した。三〇万の人民が、全斗煥の送りこんだ戒厳軍(特戦団)の暴虐をまわりない弾圧に抗したなかつた。敵の武器庫を襲い、奪いとつた武器で武装した人民は、戒厳軍を光州市からたたきだし、自治組織をつくりだし、一〇日間にわたつて光州市を支配しつづけた。数千人の死者にかかわらず鎮圧されたとはいえ、それはまぎれもない人民蜂起であった。光州蜂起は、南朝鮮人民のなかに決してぬぐい去ることのできない全斗煥政権へのすさまじい憎しみと、戒厳軍の投入を承認した米帝への激しい怒りをきざみこむとともに、以降のたたかいへの数限りない教訓を残した。

光州蜂起から五年目を迎えた八五年春、南

朝鮮人民のたたかいは、かつてない高揚をきりひらきつつある。

四月一三日、清渓被服労組の承認と労組弾圧粉碎をかけた街頭デモとバリケード戦が一〇〇〇人の労働者、学生によってたたかわれた。

一七日には、全国二六大学の学生が高麗大の労働者、学生によつてたたかわれた。

四月一三日、清渓被服労組の承認と労組弾

壓粉碎をかけた街頭デモとバリケード戦が一〇〇〇人の労働者、学生によつてたたかわれた。

四月一三日、清渓被服労組の承認と労組弾圧粉碎をかけた街頭デモとバリケード戦が一〇〇〇人の労働者、学生によつてたたかわれた。

四月一三日、清渓被服労組の承認と労組弾圧粉碎をかけた街頭デモとバリケード戦が一〇〇〇人の労働者、学生によつてたたかわれた。

四月一三日、清渓被服労組の承認と労組弾

高揚する韓国階級闘争

すべてのたたかう労働者、学生諸君！

光州蜂起五周年を迎えた韓国では、いま激しい反米反日、全斗煥独裁政権打倒、南北統一にむけた闘争が燃えひろがつてゐる。南朝鮮労働者人民の英雄的決起にこたえ、日韓連帯のたたかいに全力でたちあがろう！

韓国全土で燃えあがる労働者 学生のたたかいに連帯せよ！

一方、同市内の南洞教会では、一〇〇〇人が集まり光州蜂起死亡者の追悼集会が開かれた。そして五月二三日正午すぎ、韓国全学連に結集する学生七六人は、警備中の機動隊員らに投石をあびせかけてソウルのアメリカ文化センターに投入した。学生たちは、「米国が光州虐殺を支援したこと」を認めて、事件解明と公開謝罪すること」および、「米国が軍部独裁政権に対する支援を即刻中止すること」を要求し、アメリカ文化センターを四日間にわたつて占拠するという英雄的な闘争をたたかひぬいた。

五月に入つて、学生を中心とするたたかいはさらに盛りあがつた。五月一〇日ころから連日各地の大学で集会、デモがくりひろげられた。「四日には、警察車輛が焼きはらわれ、一五日には光州で全南大、朝鮮大の一五〇〇人が機動隊に火炎ビン、石を投げつけて激しく衝突し、一六日には全国三九大学一万五千人が集会をおこなつた。

そして光州蜂起五周年の前日にあたる一七日には、全国六八大学四万人が集会、デモを行ない、この数年間で最大規模の闘争がうちぬかれた。ソウル大の光州事件糾弾集会には五〇〇〇人が結集し、催涙弾で規制する機動隊に投石で応酬し夜までたたかひねいた。同じソウル市内の延世大では「光州の血を忘れないな」「軍事独裁政権打倒」などの横断幕やピラがいたるところに張りめぐらされ、二〇〇〇人の学生が「光州抗争五周年記念・民主主義葬礼式」と名づけた集会を行なつた。その後、延世大、高麗大の学生それぞれ一〇〇〇人がスクランムを組んで学外に出ようとしたのに対し、機動隊が催涙弾を発射したが、学生たちは石、火炎ビンを投げつけて激しくたたかつた。また光州市では、全南大における「光州事件糾弾集会」に三〇〇〇人が結集し、韓国政府首脳のワラ人形を焼きはらつたのち、デモをくりひろげ、機動隊と激しく衝突した。

ソウル市中心街にある文化センターを占拠され、これをひき金にした反米闘争の嵐に直面した米帝は心底この闘争を憎みつつもついに実力排除にふみだすことができず、占拠学生および全学連との「対話」を継続すると表明せざるをえなかつた。それは米帝のこの闘争への理解を示すものでは決してない。占拠学生達が実力排除に對しては集団自決で抗議すると通告しすさまじい決死の覚悟で闘争にのぞんでいるなかで、実力排除をおこなえば反米闘争の爆発を生みださざるをえないことをただただ恐れたためである。全斗煥政権もまた「米文化センター乱入者らは自由を放縱と無法で悪用した」「断固たる政府の意思を示してこそ自由民主主義を信奉する国民を安

心させることができること」と口をきわめてののしつたが、ついに占拠闘争に一指もふれることができなかつた。それは、この闘争が決して一部の孤立した部分の闘争ではなく、南朝鮮人民の激しい全斗煥政権への憎しみと反米意識の反映するものであつたことを示すとともに、南朝鮮反体制運動の力量がもはや全斗煥や米帝に好き放題の弾圧を許さないまでに前進していることを示した。

こうして四日間の占拠闘争をたたかつた学生達は、二六日午後零時六分「ろう城を解くにあたつて」と題する声明を発表して自ら占拠を解き、「独裁打倒」と書いた鉢巻姿で太極旗（韓国国旗）を手にした学生を先頭に、「独裁打倒」「警察は退け」とシユプレヒコ

ールしながら撤収した。

声明は、「米側は光州虐殺に対する責任はない」と主張し、強制排除を避けることのみに没頭した」と厳しくアメリカを非難し、「こうした米国の態度から、われわれは占拠によ

る問題解決の限界を感じ、また二七日の南北赤十字会談を考え、占拠を解く」と表明するとともに「しかし、光州虐殺は過去のことではない。嚴然として存在する現実だ。毎年五月になれば光州の靈魂は韓半島をさまよい、元凶処断を求める民主勢力の抗議は力強くなっていく」と宣言し、この占拠解除がたしかいの終わりなのではなく、全斗煥軍事独裁政権の打倒まで止むことのない新たな闘争の始まりにすぎないことを鮮明にした。

われわれの連帯の基準

光州蜂起五周年闘争に示される南朝鮮労働者人民のたたかいにこたえ日本プロレタリアートは今こそ全力で日韓連帯闘争に決起しなければならない。

それは第一に、日帝の南朝鮮新植民地主義支配と対決し、日米安保の強化と結合した日帝の朝鮮侵略反革命戦争準備の前に立ちちはだかり、日帝の打倒とプロレタリア独裁権力の樹立のためにたたかうことである。一九六五年韓條約締結以降の二〇年を通して、日帝は南朝鮮を全くの新植民地主義支配下におき、これを維持することはやはや日帝の生命線となってきた。現在では、韓国への外国からの資本投下の五一・五%を日本が占め、日韓貿易では毎年二〇億ドルにのぼる黒字となつている。

このような資本投下のもとである膨大な日帝の超過利潤は、馬山輸入自由地域などの経済的特權と、南朝鮮労働者の劣悪な労働条件・飢餓賃金に支えられたものである。南朝鮮労働者は、週五八時間労働と膨大な労働災害にさいなまれ、このような劣悪な労働条件下で働いても都市労働者の五九%が月給三万円以下という低賃金におかれている。まさに日本の資本家どもは、南朝鮮の資源や土地を好き放題に奪い取り、労働者を低賃金でこき使い、日本製品をあふれさせ、日本国内では不可能な法外なボロもうけをおこなつてゐるのである。そしてこの経済的支配を維持強化するために、日帝は南朝鮮のひとにぎりの特権支配層や買弁ブルジョアジーと結びつき、彼らの代表である全斗煥独裁政権を支え、テコ入れすることに全力をつくしてきたのである。昨年九月の全斗煥来日－天皇会談、四〇億ドルの対韓援助は、その表面にあらわれたひとつにすぎない。

南朝鮮人民はこの現実を厳しく批判して次のように言つてゐる。「全国民の反対に顔をそむけたまま締結したこの売国的な韓日協定

人民との連帯をわれわれは、自國帝國主義

日帝打倒、プロ独樹立にはつきりと規準づけなければならないのである。

第一には、日本プロレタリアートの連帯・援助を、南朝鮮反体制運動の反帝民族解放闘争への前進、プロレタリア社会主義革命との結合にこそ集中していくことである。

光州蜂起の教訓をふまえ、南朝鮮人民のたたかいは巨大な転換期をきりひらいてきたといえる。かつて「反米無風地帯」とよばれた韓国において反外勢（反米反日）闘争が燃えあがってきた。また学生運動を中心の大衆的実力闘争が急速に拡大し、本年三月以降だけでも、デモ時の投石戦が三三一回、火炎ビンの投げられたデモが七八回（韓國內務省）に達している。そして全斗煥の弾圧によって一時期沈滯を余儀なくされていた労働運動が、昨年三月十日の労働者福祉協議会の創設や激増する労働争議に示されるごとく、再び力強く前進している。

このたたかいの広範な基盤のうえに、このたたかいを古い反共・親米、議会主義の枠内におしとどめるのか、それとも光州蜂起をうけつき、非妥協的な反帝民族解放闘争に突き進み、そのなかからプロレタリア社会主義革命との結合をきりひらくのかといいう岐路に南朝鮮のたたかいはさしかかっている。

広範な反外勢闘争の高揚にもかかわらず、ソウル米文化センター占拠学生の声明にも示されるごとく、日米帝の支配が日米政府の恣意的政策ではなく、資本主義的帝國主義としての本性にもとづくものと充分とらえられてゐるわけではない、また反共・反共和国の立場から韓国の民主化とそのための日米政府の政策転換を求めるブルジョア民族主義的傾向もいまだ広範に存在している。

また、今春総選挙で「鮮明野党」をかけた大躍進した新韓民主党（新民党）の指導者たちが、労働者人民がより尖鋭なスローガンと戦術に進もうとすることをおしとどめる位置にあることも事実である。新民党の実際上の指導者である金大中氏は、「韓国民の一部に自暴自棄と急進化の傾向が強まつてゐることに私は深い憂慮を覚えている」と述べ、平和的民主化を希望することが今も可能であることを確信させることができ自分の役割りのひとつにはいかない。

同時にわれわれがはつきりとふまえておくべきことは、新植民地支配も侵略反革命戦争準備も帝國主義にとって変更可能な政策では決してないことである。だからこそ、南朝鮮



▶スローガンが張りめぐらされた
米文化センター（五月二三日）

だと述べた。さらにソウル米文化センター占拠闘争に対し、金大中・金派三両氏連名の書簡を占拠学生に送り、友好国公館を占拠していること、南北赤十字会談を目前に北の共産政権の利益につながることを理由に、占拠闘争の中止を求めた。また新民党も声明を発表し、学生の心情は理解するしつつも、政治的な問題は政治家にゆだねなければならぬ、国家利益に重大な悪影響をおよぼすと批判した。

ここには明らかに今後のたたかいの方向をめぐる分岐と論争が存在している。しかし、この五年間に急速な成長をとげた南朝鮮人民の前衛的部分は必ず、広範な反独裁民主化闘争を発展させながら闘争の次の進路をきりひらいていくであろう。

第三には、社共の排外主義とたたかい、わが国プロレタリアートをプロレタリア国際主義のもとに階級形成していくための戦略的闘争として日韓闘争を再建していくことである。



▲京労実結成の契機となつたレーイガン来日阻止闘争(83年11月 円山野音)

6・24京労実闘争へ！

六月二十四日、京都シルクホールにおいて、四度目の京都労働者実行委闘争が行なわれる。

「許すな核戦争！」トマホーク極東配備に反対しよう！ニカラグア革命連帯！アメリカの軍事侵略に反対しよう！日韓連帯のたたかいを発展させよう！指紋押捺強要を許すな！中曾根政権の戦争準備に反対しよう！」といふ統一ストローガンのもと、七〇〇名規模での集会とデモが予定されている。

集会では、「労働者と国際連帯」と題する講演、韓青同、ニカラグアのサンディニスタ民族解放戦線（文書・予定）からの連帯アピールが行なわれるなど、反戦平和とともに、全世界の労働者のたたかいに注目し、連帯するたたかいの方向が強くうちだされる。

社会党一総評はどうか。社会党は、昨年来「対韓政策の見直し」をおし進め、ついに今秋には全斗煥政権の承認につながる正式代表団を韓国に派遣せんとしている。これと連動し、総評は昨年から全斗煥政権を支える御用労組連合＝韓國労総との交流・結合を急速に進めてきた。社共の排外主義と断固としてたたかわねばならない。

昨年の反トマホーク闘争の高揚に示されるごとく、わが国では「反戦・反核」「反戦・平和」をかけた全人民政治要求にもとづくたたかいがうつづいている。日韓連帯闘争

日帝足下の労働者にとって、自國の侵略反革命戦争準備との闘争と切ってもきりはなせない南朝鮮のたたかいは光州蜂起五周年を迎えて、犠牲をおそれず前進している。また、指紋押捺強要に対する広範な関心も生まれてきており、在、日韓連帯のたたかいに労働者を立ちあがらせつづけていくことはひきつづき重要である。今回の京労実闘争は、これに加えてニカラグア革命連帯を、注目すべき重要な課題としておしだしている。

それは、革命からまだ遠くへだてられているわが国の労働者のなかに、はるかな国で、社会主義革命への発展に向かって苦闘するプラグア革命連帯！アメリカの軍事侵略に反対しよう！日韓連帯のたたかいを、一時のものではなく労働者の政治闘争の基底にすえている。

京労実闘争はこれらの人々が行なわれるなど、反戦平和とともに、全世界の労働者のたたかいを、一時のものではなく労働者の政治闘争の基底にすえている。

さて、以上のようないくつかの政治課題をいかがてたたかわれる京労実第四回を実現するために、京労実はこの

| | |
|-------------------|--------------|
| 反戦・反安保国際連帯 | |
| 京都総決起集会 | |
| 主 催 | 京都労働者実行委員会 |
| 日 時 | 六月二十四日 午後六時 |
| 場 所 | 京都産業会館シルクホール |
| 連絡先 | 自立労働組合連合 |

五〇七四四三八七二

日共には、自國帝国主義の南朝鮮新植民地主義支配とたたかうという立場がみじんも存続しない。日共は、かつて金大中氏ら致事件に對して「主權侵害」を叫び、昨年の全斗煥に對して「日本の平和と民主主義をおびやかす軍事独裁者全斗煥の來日に反対する」と唱え、自國帝国主義擁護の一層露骨な排外主義へと転落している。

社会党一総評はどうか。社会党は、昨年来「対韓政策の見直し」をおし進め、ついに今秋には全斗煥政権の承認につながる正式代表団を韓国に派遣せんとしている。これと連動し、総評は昨年から全斗煥政権を支える御用労組連合＝韓國労総との交流・結合を急速に進めてきた。社共の排外主義と断固としてたたかわねばならない。

昨年の反トマホーク闘争の高揚に示されるごとく、わが国では「反戦・反核」「反戦・平和」をかけた全人民政治要求にもとづくたたかいがうつづいている。日韓連帯闘争

は、この高揚を「自國の平和と安全」のみをこい願うものに閉塞させ腐らせるのか、それともこの内部に流動をもちこみ、自國帝国主義の打倒とプロレタリア国際主義へと前進させていくのかを鋭く問う闘争である。先进的的政治要求の内部から、自國帝国主義の打倒－プロレタリア独裁権力の樹立と国際的なプロレタリアートの解放に向かうプロレタリア階級闘争のうねりを創りだすために全力でたたかわねばならない。そのためにこそ、この日韓闘争の戦略的位置をふみにじり、「隣国にふさわしい友好関係作り」「日米安保から離脱」「護憲・非同盟」を唱える俗流市民主義者やこれに拝跪する右翼日和見主義との闘争が決定的に重大なのである。プロレタリア政治闘争の大爆発で、韓國労働者、学生のア政局にこたえよ！



▶ニカラグア革命防衛かかげデモ

を行なう七〇の部隊(京都)

全関西集会に九〇の結集 ——京都——

プロレタリア 国際主義かかげ

六月九日、「ニカラグア革命連
帶／安保粉碎／治安弾圧粉碎／全
関西集会が京都勤労会館において
九〇名の結集でかちとられた。

主催団体であるプロレタリア行
動委（準）と全国労政は、それぞ
れ今夏のたたかいの中心にニカラ
グア革命連帶をすえてたたかって
きた。集会はこのたたかいへの諸
団体からの連帯アピールで始まる。

まず最初に、関西LIA研の発言
者から、「ニカラグア革命連帶と
は日常の中米への侵略を阻止して
いくことである。」ことが訴えら
れ七・二〇集会への参加が呼びか
けられた。つづいてたつた洛南戦

六月九日、「ニカラグア革命連
帶／安保粉碎／治安弾圧粉碎／全
関西集会が京都勤労会館において
九〇名の結集でかちとられた。

主催団体であるプロレタリア行
動委（準）と全国労政は、それぞ
れ今夏のたたかいの中心にニカラ
グア革命連帶をすえてたたかって
きた。集会はこのたたかいへの諸
団体からの連帯アピールで始まる。

まず最初に、関西LIA研の発言
者から、「ニカラグア革命連帶と
は日常の中米への侵略を阻止して
いくことである。」ことが訴えら
れ七・二〇集会への参加が呼びか
けられた。つづいてたつた洛南戦

六年以上日本に在住する外国人
約七八万人中、在日朝鮮人・韓国人
は約六九万人にのぼる。また、
今年約三七万人が外登証更新を迫
られており、在日朝鮮人・韓国人
は、その約八割を占める。

この多くの在日朝鮮人・韓国人
の歩んできた歴史は、日帝の苛酷
な支配・搾取・抑圧と、それへの
たたかいの歴史である。

一九一〇年、日帝の朝鮮併合強
行－朝鮮総督府の「武断政治」下
での強制連行によって、あるいは
土地を收奪されやむなく日本へ渡
った多くの朝鮮人は、日帝の徹底
した抑圧と支配と搾取のもとにお
かれ、戦後も変ることなく続いて

一年以上日本に在住する外国人
約七八万人中、在日朝鮮人・韓国人
は約六九万人にのぼる。また、
万円以下の罰金という重い刑事罰
を課し、実刑の場合国外に強制退
去させられることもあるというも
のである。

一年以上日本に在住する外国人
約七八万人中、在日朝鮮人・韓国人
は約六九万人にのぼる。また、
万円以下の罰金という重い刑事罰
を課し、実刑の場合国外に強制退
去させられることもあるというも
のである。

今夏、外国人登録証の大量更新
を焦点に、指紋押捺拒否・外登法
撤廃のたたかいが大きくもり上っ
ている。

外国人登録法は日本に在住する
一六歳以上の外国人に対して、五
年ごとの更新時に、写真提出と指
紋押捺、職業や勤務先の登録を義
務づけ、また登録証の常時携帯と、
出入国管理当局・警察が提示を求
めた場合の提示を義務づけ、これ
らを拒否した場合、外登法違反と
して一年以下の懲役・禁固・二〇
万円以下の罰金という重い刑事罰
を課し、実刑の場合国外に強制退
去させされることもあるというも
のである。

この支配と激しくたたかう在日
朝鮮人の闘争は、日本階級闘争の
大きな一翼として、復興期の日帝
をおびやかした。同時にそれは、
中国・朝鮮の反帝民族解放－社会
主義へと向かうたたかいの前進を
庄殺し、侵略反革命に乗り出さん
とする日帝の野望の前に立ちふさ
きた。

この支配と激しくたたかう在日
朝鮮人の闘争は、日本階級闘争の
大きな一翼として、復興期の日帝
をおびやかした。同時にそれは、
中国・朝鮮の反帝民族解放－社会
主義へと向かうたたかいの前進を
庄殺し、侵略反革命に乗り出さん
とする日帝の野望のものと、指紋
押捺拒否・外登法撤廃のたたかい
の高揚に対するさまざまな攻撃が
打ちおろされている。

五月八日、川崎の在日韓国人、
李相鎬（イ・サンホ）氏に対する
逮捕強行という許しがたい弾圧に
も明らかのように、指紋押捺拒否
闘争に立ち上った在日朝鮮人・韓
国人に対しては極めて悪質な恫喝
・逮捕をもって彼らの決起を弾圧
し、一方で、指紋押捺制度の「簡
略化」をもってたたかいの広がり
を押え、懷柔せんとしている。し
かし、この「簡略化」の欺まん性
は明らかであり、「三ヶ月説得後
告発」「拒否者に外登証を発給し
ない」などの法務省通達にみられ
るように制裁の強化と支配の徹底
化にこそ日帝の眞の意図は存在し
ている。

一九四七年外国人登録令、五一
年出入国管理令、五二年外国人登
録法施行、五五年指紋押捺実施と、
今日まで強化され続ける支配の本
質は、第一に、日帝の朝鮮新植民
地主義支配貫徹のために、祖国の
たたかいと結合した在日朝鮮人・
韓国人の闘争の前進、先駆性に対
する。日帝の在日韓国人に対する
強制連行によって、あるいは土
地を收奪されやむなく日本へ渡
った多くの朝鮮人は、日帝の徹底
した抑圧と支配と搾取のもとにお
かれ、戦後も変ることなく続いて

がるものであった。

一九四七年外国人登録令、五一
年出入国管理令、五二年外国人登
録法施行、五五年指紋押捺実施と、
今日まで強化され続ける支配の本
質は、第一に、日帝の朝鮮新植民
地主義支配貫徹のために、祖国の
たたかいと結合した在日朝鮮人・
韓国人の闘争の前進、先駆性に対
する。日帝の在日韓国人に対する
強制連行によって、あるいは土
地を收奪されやむなく日本へ渡
った多くの朝鮮人は、日帝の徹底
した抑圧と支配と搾取のもとにお
かれ、戦後も変ることなく続いて

指紋押捺制度を許すな

李相鎬氏不当逮捕弾劾

イ・サンホ

人民は、かかる日帝の排外主義攻
撃と真向からたたかい、日帝の朝
鮮新植民地主義支配と侵略反革命
戦争の野望を打ちくだく帝国主義
足下のたたかいを在日朝鮮人・韓
国人との固い团结でうちたてねば
ならない。

すべての日本プロレタリアート
人は、かかる日帝の排外主義攻
撃と真向からたたかい、日帝の朝
鮮新植民地主義支配と侵略反革命
戦争の野望を打ちくだく帝国主義
足下のたたかいを在日朝鮮人・韓
国人との固い团结でうちたてねば
ならない。

また日帝は、指紋押捺拒否に對
する大阪府警外事課長発言「外國
人になめられている……いやであ
れば自分の国にお帰りになればい
い……日本人と同じように育つて
いる方は日本に帰化すればいいん
です」と露骨な排外主義をふ
りまいている。

この支配と激しくたたかう在日
朝鮮人の闘争は、日本階級闘争の
大きな一翼として、復興期の日帝
をおびやかした。同時にそれは、
中国・朝鮮の反帝民族解放－社会
主義へと向かうたたかいの前進を
庄殺し、侵略反革命に乗り出さん
とする日帝の野望のものと、指紋
押捺拒否・外登法撤廃のたたかい
の高揚に対するさまざまな攻撃が
打ちおろされている。

五月八日、川崎の在日韓国人、
李相鎬（イ・サンホ）氏に対する
逮捕強行という許しがたい弾圧に
も明らかのように、指紋押捺拒否
闘争に立ち上った在日朝鮮人・韓
国人に対しては極めて悪質な恫喝
・逮捕をもって彼らの決起を弾圧
し、一方で、指紋押捺制度の「簡
略化」をもってたたかいの広がり
を押え、懷柔せんとしている。し
かし、この「簡略化」の欺まん性
は明らかであり、「三ヶ月説得後
告発」「拒否者に外登証を発給し
ない」などの法務省通達にみられ
るように制裁の強化と支配の徹底
化にこそ日帝の眞の意図は存在し
ている。

五月八日、川崎の在日韓国人、
李相鎬（イ・サンホ）氏に対する
逮捕強行という許しがたい弾圧に
も明らかのように、指紋押捺拒否
闘争に立ち上った在日朝鮮人・韓
国人に対しては極めて悪質な恫喝
・逮捕をもって彼らの決起を弾圧
し、一方で、指紋押捺制度の「簡
略化」をもってたたかいの広がり
を押え、懷柔せんとしている。し
かし、この「簡略化」の欺まん性
は明らかであり、「三ヶ月説得後
告発」「拒否者に外登証を発給し
ない」などの法務省通達にみられ
るように制裁の強化と支配の徹底
化にこそ日帝の眞の意図は存在し
ている。

の革命が、米国の支配からの離脱リソ連の経済圏への組みこみといふ困難とたたかいながら展望したこと、中米革命がいまニカラグアにひきつがれて前進させられていることを明らかにし、ニカラグアが同様にぶつかるであろう困難に帝国主義本国の労働者としてどのように連帯していくかを模索していくことが課題であると提起された。

この問題提起は、本集会の基調提案にひきつがれる。基調は、ニカラグア革命連帶を中心、現代過

渡期世界止揚の、プロレタリアー

トの根本任務を鮮明に提起し部隊を固く意志一致した。

本集会と歩みをともにしてきた学生団体（共産主義学生活動者会議と同志社大学全学戦線）のアピールをうけ、プロレタリア行動委の決意表明を最後に、部隊は赤ヘル連帶していけるのかを模索していくこと、この問題提起は、本集会の基調提案にひきつがれる。基調は、ニカラグア革命連帶を中心、現代過

度期世界止揚の、プロレタリアー

トの根本任務を鮮明に提起し部隊を固く意志一致した。

本集会と歩みをともにしてきた学生団体（共産主義学生活動者会議と同志社大学全学戦線）のアピールをうけ、プロレタリア行動委の決意表明を最後に、部隊は赤ヘル連帶していけるのかを模索していくこと、この問題提起は、本集会の基調提案にひきつがれる。基調は、ニカラグア革命連帶を中心、現代過

度期世界止揚の、プロレタリアー



5・12 第五回 全国学生共同闘争かちどる『プロレタリア革命』うちだし

明 大

わが国学生運動の革命的再建と

ロレタリア階級闘争の一翼へ合流

することに結実せんとしているのだ。

わが同大学戦線、京産大、淑

大社思研は、この間一貫してプロ

レタリアートの階級的利害に立つ

革命的学生運動の建設を訴え、今

夏ニカラグア革命連帶行動をプロ

レタリアートの國際主義でたたかうよう

よびかけた。第五回全国共同闘争

は、四・八戦士の決意表明と銀へ

レタリアートの政治的統一戦線を

建設する」「自己を共産主義的な

ものへと形成する」など、革命的

命と共産主義こそが革命的学生運

動の核心に浮上してきている。い

たかい、すなわちプロレタリア革

命と共産主義こそが革命的学生運

動の核心に浮上してきている。い



▲4・8 戦士で決意表明にたつ
同志社大学全学戦線の同志

▲ ファシスト撃滅を誓う
減一掃を誓う



去る五月十二日、明治大学駿台校舎において、日大全文理連絡会議（銀ヘル）の呼びかけのもと第五回全国学生共同闘争が、四四大学、七七団体の戦闘的学生、労働者四百名を結集し、かちとられた。日帝の侵略反革命戦争とファシズムの準備が、一層強化されるなかで、日大を初めとするファシズム学生運動の抬頭は、決して偶然事ではない。八〇年代わが国学生運動の革命的學生運動は、先進的ズム学生運動との闘争は、先進的

学生にとって第一級の任務である。ズム学生運動、日共学生運動にて、反憲学連を初めとしたファシズムの準備が、一層強化されるなかで、日大を初めとするファシズム学生運動の抬頭は、決して偶然事ではない。八〇年代わが国学生運動の革命的學生運動は、先進的ズム学生運動との闘争は、先進的

学生にとって第一級の任務である。ズム学生運動、日共学生運動にて、反憲学連を初めとしたファシズムの準備が、一層強化されるなかで、日大を初めとするファシズム学生運動の抬頭は、決して偶然事ではない。八〇年代わが国学生運動の革命的學生運動は、先進的ズム学生運動との闘争は、先進的

学生にとって第一級の任務である。ズム学生運動、日共学生運動にて、反憲学連を初めとしたファシズムの準備が、一層強化されるなかで、日大を初めとするファシズム学生運動の抬頭は、決して偶然事ではない。八〇年代わが国学生運動の革命的學生運動は、先進的ズム学生運動との闘争は、先進的

学生にとって第一級の任務である。ズム学生運動、日共学生運動にて、反憲学連を初めとしたファシズムの準備が、一層強化されるなかで、日大を初めとするファシズム学生運動の抬頭は、決して偶然事ではない。八〇年代わが国学生運動の革命的學生運動は、先進的ズム学生運動との闘争は、先進的

学生にとって第一級の任務である。ズム学生運動、日共学生運動にて、反憲学連を初めとしたファシズムの準備が、一層強化されるなかで、日大を初めとするファシズム学生運動の抬頭は、決して偶然事ではない。八〇年代わが国学生運動の革命的學生運動は、先進的ズム学生運動との闘争は、先進的

5・27特別抗告棄却弾劾！

石川氏奪還までたたかおう

た新証拠に対し、いかにいいのが

それを弄するのか、これを最高裁が

裁決するにあたっては、ただ「小名木

策謀していたことに他ならなかっ

た。そしてまた、五月二三日、中

が、七四年寺尾高裁判決前と同様、

そぞろ頭をもたげていたことであ

る。司法に対するブルジョア民主

主義的見地は厳しく排されねばな

らない。第二に、狹山闘争を社会

五月二七日、最高裁（第二小法廷大橋裁判長）は、狹山再審請求特別抗告申し立てを棄却するといふ暴挙にいた。この棄却決定は、徹頭徹尾ブルジョアジーによる政治的意図に貫ぬかれた、許しがたい判決である。特別抗告審に四年

定している新証拠）をはじめとし

た新証拠に対し、いかにいいのが

それを弄するのか、これを最高裁が

裁決するにあたっては、ただ「小名木

策謀していたことに他ならなかっ

た。そしてまた、五月二三日、中

が、七四年寺尾高裁判決前と同様、

そぞろ頭をもたげていたことであ

る。司法に対するブルジョア民主

主義的見地は厳しく排されねばな

らない。第二に、狹山闘争を社会

帝国主義間の矛盾が噴出

第11回先進国首脳会議

西ドイツ・ボン

開催された「第十一回主要先進国首脳会議」（サミット）は、「政治宣言」と「経済宣言」を採択して閉幕した。

第一次オイルショックを直接的契機として一九七四年～五年の世界的な不況下で、帝国主義諸国はサミットをもってこの危機を突破しようとした。サミットは第一次、第二次石油危機にさいしては、一定の経済的対応をしたもののが抜本的に力をかすものではなかった。それは逆に失業の増大、貿易摩擦の激化、財政危機の深刻化と、危機は深まっているのである。そしてこの帝国主義としての矛盾を帝国主義戦争と、国際階級闘争の鎮圧をもって乗りきらんとする国際的な反革命会議として全世界のプロレタリアートに銃口を向けつづけているのである。全世界のプロレタリアートは、サミットとそれを前後するブルジョアジーの虚言を許さず徹底的に批判し、教訓化しなければならない。

今回のサミットは、ブルジョア新聞までもが公然と「失敗」と評価するように、経済的にも政治的にも、各帝国主義の危機の深まりを露呈し抗争をうかびあがらせたのである。サミットが明らかにした教訓とは何か。

第一に、帝国主義間の経済的対立の激化ゆえに、資本主義の世界的危機の緩和につながるいかなる有効な合意も作れなかつた。今回の焦点となした多角的貿易交渉（新ラウンド）を推進せんとした日米帝の野望は、仏帝の抵抗の前に経済的調整によって解決しないばかりか、利害衝突を表面化させる

ことである。今日、社会党一「日本のかえ」派を代表とする部分は、リーアートの政治闘争へと変革してゆくことである。そしてそれは、「綱領改訂」「基本法制定」を機にますます右傾化の道をたどつている今日の部落解放運動総体の構

議会主義政治への歪曲とたたかうことである。今日、社会党一「日本のかえ」派を代表とする部分は、リーアートの政治闘争へと変革してゆくことである。そしてそれは、「綱領改訂」「基本法制定」を機にますます右傾化の道をたどつている今日の部落解放運動総体の構

義」を求めるプチブル政治要求へと固定しようとしている。これとたたかい狭山差別裁判糾弾闘争を日帝と正面から対決するプロレタリアートの政治闘争へと変革してゆくことである。そしてそれは、「綱領改訂」「基本法制定」を機にますます右傾化の道をたどつている今日の部落解放運動総体の構

議会主義、小ブル民主主義的政治宣言」と「経済宣言」を採択して閉幕した。

第一次オイルショックを直接的契機として一九七四年～五年の世界的な不況下で、帝国主義諸国はサミットをもってこの危機を突破しようとした。サミットは第一次、第二次石油危機にさいしては、一定の経済的対応をしたもののが抜本的に力をかすものではなかった。それは逆に失業の増大、貿易摩擦の激化、財政危機の深刻化と、危機は深まっているのである。そしてこの帝国主義としての矛盾を帝国主義戦争と、国際階級闘争の鎮圧をもって乗りきらんとする国際的な反革命会議として全世界のプロレタリアートに銃口を向けつづけているのである。全世界のプロレタリアートは、サミットとそれを前後するブルジョアジーの虚言を許さず徹底的に批判し、教訓化しなければならない。

今回のサミットは、ブルジョア新聞までもが公然と「失敗」と評価するように、経済的にも政治的にも、各帝国主義の危機の深まりを露呈し抗争をうかびあがらせたのである。サミットが明らかにした教訓とは何か。

第一に、帝国主義間の経済的対立の激化ゆえに、資本主義の世界的危機の緩和につながるいかなる有効な合意も作れなかつた。今回の焦点となした多角的貿易交渉（新ラウンド）を推進せんとした日米帝の野望は、仏帝の抵抗の前に経済的調整によって解決しないばかりか、利害衝突を表面化させる

造と質を変革するためにたたかうことと不可分である。

無実の石川氏が、部落差別にもとづいて権力によって獄につながれて二年がたつてゐる。石川氏の無念、怒りにこたえ、特別抗告棄却徹底糾弾、第二次再審闘争を再度全人民的政冶闘争へとおしあげ、議会主義、小ブル民主主義的政治宣言と「経済宣言」を採択して閉幕した。

第一次オイルショックを直接的契機として一九七四年～五年の世界的な不況下で、帝国主義諸国はサミットをもってこの危機を突破しようとした。サミットは第一次、第二次石油危機にさいしては、一定の経済的対応をしたもののが抜本的に力をかすものではなかった。それは逆に失業の増大、貿易摩擦の激化、財政危機の深刻化と、危機は深まっているのである。そしてこの帝国主義としての矛盾を帝国主義戦争と、国際階級闘争の鎮圧をもって乗りきらんとする国際的な反革命会議として全世界のプロレタリアートに銃口を向けつづけているのである。全世界のプロレタリアートは、サミットとそれを前後するブルジョアジーの虚言を許さず徹底的に批判し、教訓化しなければならない。

今回のサミットは、ブルジョア新聞までもが公然と「失敗」と評価するように、経済的にも政治的にも、各帝国主義の危機の深まりを露呈し抗争をうかびあがらせたのである。サミットが明らかにした教訓とは何か。

第一に、帝国主義間の経済的対立の激化ゆえに、資本主義の世界的危機の緩和につながるいかなる有効な合意も作れなかつた。今回の焦点となした多角的貿易交渉（新ラウンド）を推進せんとした日米帝の野望は、仏帝の抵抗の前に経済的調整によって解決しないばかりか、利害衝突を表面化させる

ことである。今日、社会党一「日本のかえ」派を代表とする部分は、リーアートの政治闘争へと変革してゆくことである。そしてそれは、「綱領改訂」「基本法制定」を機にますます右傾化の道をたどつている今日の部落解放運動総体の構

議会主義、小ブル民主主義的政治宣言」と「経済宣言」を採択して閉幕した。

第一次オイルショックを直接的契機として一九七四年～五年の世界的な不況下で、帝国主義諸国はサミットをもってこの危機を突破しようとした。サミットは第一次、第二次石油危機にさいしては、一定の経済的対応をしたもののが抜本的に力をかすものではなかった。それは逆に失業の増大、貿易摩擦の激化、財政危機の深刻化と、危機は深まっているのである。そしてこの帝国主義としての矛盾を帝国主義戦争と、国際階級闘争の鎮圧をもって乗りきらんとする国際的な反革命会議として全世界のプロレタリアートに銃口を向けつづけているのである。全世界のプロレタリアートは、サミットとそれを前後するブルジョアジーの虚言を許さず徹底的に批判し、教訓化しなければならない。

今回のサミットは、ブルジョア新聞までもが公然と「失敗」と評価するように、経済的にも政治的にも、各帝国主義の危機の深まりを露呈し抗争をうかびあがらせたのである。サミットが明らかにした教訓とは何か。

第一に、帝国主義間の経済的対立の激化ゆえに、資本主義の世界的危機の緩和につながるいかなる有効な合意も作れなかつた。今回の焦点となした多角的貿易交渉（新ラウンド）を推進せんとした日米帝の野望は、仏帝の抵抗の前に経済的調整によって解決しないばかりか、利害衝突を表面化させる

5・23 明治公園

三万人

集会は、決戦勝利にむけて終始熱氣があふれ、集会後、都内のデモを行なつた。

五月二三日、東京明治公園において、狭山再審請求中央総決起集会が三万人をこえる結集でかちと真向から対決するプロレタリア的政冶闘争へと変革するために、先进的プロレタリアートは奮闘しなければならない。

免田栄氏の連帯発言がなされた。



▲特別抗告棄却を許すな(5月23日)



日帝は貿易黒字（対米三五〇億

帝國主義労働運動に姿貌する電通民同粉碎 われわれの電通労働運動基調(下)

労働者階級の階級形成

(前号より続く) われわれは、これらに対して、政治闘争の組織化、階級としての思想教育などの全領域において、電通労働者にたいして指導をひきうける部隊へと自らを形成していかねばならない。われわれが民同にかわってどのような労働運動を作るのか。現在の階級闘争をどのように変革していくのか。どのような社会を建設し、いかなる権力をめざすのか。このことに責任をもつて答えねばならない。もしそうしないならば、われわれは、「組合レベルの攻防」によって民同との闘争に勝利できる」と、労働者大衆を欺いているに等しいことになるのである。

さて日共は、さらに露骨な組合主義、経済主義であり、社会排外主義として登場している。彼らは、民同から激しい弾圧をうけながらも電通労働者の反民同の気分を全国的に吸収している。しかしその路線は結局、民同の路線の上での「左」からの補完物として存在するのである。彼らは、民同の路線の上で、「組合運営の民主化」を言い、また「政党支持の自由化」を唱えていたのみであり、民同に對して別個の労働運動を対置したわけではなかった。彼らは、民同による統制処分攻撃に對して別個の組合を結成したが、それは労働者の階級形成とは無縁のものであり、政治的決起の組織化もなく、ただただ組合員の経済的利益をそれ自身として実現すること——しかも「国民全体の利益」という名を冠せられた小ブルの利益に従属すべきであること、この要求は議会選挙による共産党議員の増大によってからかとられる、というくり返しにすぎない。この路線は「大資本のもうけを分け与えよ」と、スローガン化されており、これは

もはや経済主義一般、議会主義一般ではない。口先では社会主義の言辞を弄しながら、実際に排外主義の沼地へ労働者大衆を引きこまんとするものに他ならぬ。

い。

われわれは、これらの諸党派、諸傾向と自らを分歧し、民同支配のもとから労働者大衆を奪いかえし、彼らをわれわれの手によって階級形成していくという任務を最も原則的に果していかねばならない。

い。

先進的電通労働者の任務

客観状況は、われわれに電通労働者の組織化を、それ自身にとどまらず、基幹産業における労働者支配との真正面からの攻防としてやりぬくことを要求している。そしてこの攻撃が全社会的攻撃の一環をなすものである以上、われわれの反撃もまた、全社会的基盤をもつて日本階級闘争の現状を根本から変革し、再構築していくものでなければならない。崩壊した公社の政治闘争を批判してきた反社共部分もせいぜいかつての総評の組合主義的政治闘争の復活を希求し、また市民主義的政治闘争との結合を展望しているあります。

建設し、階級闘争の陣形をたとえ小規模なものであつたとしても、かかる状況のなかであるからこそ一層、労働者大衆の不満、抵抗リ亞政治闘争の陣形とプロレタリア主体的に建設し、日本階級闘争を再編していくにあたる。これらは、階級闘争上の任務を電通労働者の現下の流动のなかにガッチャリと提起し、民同との攻防にうちかち、多くの労働者大衆をこの任務のものとに結集させていくこと、またこれをつうじて電通労働者のなれどもに建設していくこと、またこれを現下の緊要の課題に他ならぬい。

このための当面する先進的労働

者の任務は次のものである。

第一に、労働者大衆のなかに大膽にプロレタリア政治闘争への決起をもちこみ、あらゆる工夫をこらして政治闘争への組織化をはかり

訓練において政治闘争の決起は緊急不可欠であるからである。

われわれは、敗北した総評・社会党的政治闘争の総括を鮮明にうらだし、官公労労働運動の戦闘性をうけつぐ部分に対し、日本プロレタリアートの国際主義的任務

に規定された革命的政治闘争とプロレタリアートの政治的統一戦線のもとに結集をよびかけねばならない。

われわれは、これらは、民同、日共との闘争は不可避であり、これにうちかたねばならない。民同は、社民の枠内での「労働者意識」「階級」「階級闘争」を最終的に抹殺し、また從来の総評の組合主義的政治闘争を否定し、「社会党と民社の和解」をかけて労働者大衆を帝国主義の主要路線の擁護者へ

と引きずりこもうとしている。日本もまた「国民一般の利益」をおしだし、議会集票活動という別の回路をとおつて民同と同様の排外主義の土俵へ大衆をつれこもうとしているのである。

矢次早の資本の攻撃のみならず、民同の大会、中央委、各種機関の反労働者的決定、指令などに対する抗争すら否定し、「社会党と民社の和解」をかけて労働者大衆を帝国主義の主要路線の擁護者へと引きずりこもうとしている。日本もまた「国民一般の利益」をおしだし、議会集票活動という別の回路をとおつて民同と同様の排外主義の土俵へ大衆をつれこもうとしているのである。

社共の政治闘争を批判してきた反社共部分もせいぜいかつての総評の組合主義的政治闘争の復活を希求し、また市民主義的政治闘争との結合を展望しているあります。

かかる状況のなかであるからこそ一層、労働者大衆の不満、抵抗リ亞政治闘争の陣形とプロレタリア主体的に建設し、日本階級闘争を再編していくにあたる。これらは、階級闘争上の任務を電通労働者の現下の流动のなかにガッチャリと提起し、民同との攻防にうちかち、多くの労働者大衆をこの任務のものとに結集させていくこと、またこれを現下の緊要の課題に他ならぬい。

このための当面する先進的労働